

中南地区統合校開設準備委員会（第3回）概要

日時：平成30年10月29日（月）

13:30～15:00

場所：スポカルイン黒石 大会議室

<出席者>

委員

黒坂 孝 委員、三上 雅也 委員、大久保 朝彦 委員、藤田 克文 委員、
山内 孝行 委員、古山 哲司 委員

オブザーバー

県立黒石高等学校

工藤 康暢 教頭、小野 淳美 教頭、原子 敏 事務長、竹村 俊哉 教務主任

県立黒石商業高等学校

川代 由美子 教頭、福士 桂子 事務長、須藤 慎二 教務主任、

菊谷 哲 情報デザイン科主任

1 開会

2 佐藤教育次長挨拶

佐藤教育次長から、挨拶があった。

3 事務局説明

(1) 第2回中南地区統合校開設準備委員会における主な意見

事務局から、資料1について説明した。

加えて、校名も含めた統合校の方向性全般について、8月より県教育委員会ホームページ上で意見募集を行っており、現時点では卒業証明書等の発行に関する意見があった旨報告した。

4 協議検討

(1) 校歌、校章及び制服の方向性について

委員長から、協議検討「(1)校歌の方向性について」、「(2)校章の方向性について」及び「(3)制服の方向性について」を一括で検討する旨提案があり委員から了解された。

事務局から、資料2について説明した。

加えて、直近の新設校の事例として、八戸高等支援学校では、校歌は教職員が作詞作曲し、校章は三八地区の高校生及び特別支援学校高等部の生徒にデザインを公募し決定している旨、また、尾上総合高校では、校歌は教育委員会関係者が作詞、教職員が作曲し、校章は一般公募し決定している旨説明した。

委員長から、委員に対し、校名案について黒石高校または（新元号）黒石高校、どちらを支持するのかを明確にした上で発言してもらいたい旨提案があった。

委員から、次のような意見があった。

- 黒石市では、小学校及び中学校において適正配置を進めるため大規模な統廃合を実施しているところである。具体的には、小学校は10校を4校に、中学校は4校を2校にする。中学校は、黒石中学校、六郷中学校及び東英中学校の3校を統合し、校名は黒石中学校とした。校歌についても黒石中学校の校歌をそのまま使用することとした。また、今年度上十川小学校及び六郷小学校を統合した。児童数は上十川小学校の方が多かったが、六郷小学校の校舎を使用するということもあり、校名は六郷小学校とした。

来年度は小学校7校を2校に統合する。中郷小学校、北陽小学校及び黒石小学校の3校の統合に当たっては、児童数は中郷小学校が一番多いが、校名は黒石小学校となった。なお、校章は新しく制定することとしている。

黒石東小学校、牡丹平小学校、追子野木小学校及び浅瀬石小学校の4校の統合に当たっては、黒石東小学校の校舎を使用するので、校名は黒石東小学校とした。結果的には、小学校も黒石小学校、中学校も黒石中学校と、地名に小学校または中学校を加えた名称が残っている。したがって、この考え方によれば、高校についても、地名+高等学校とし、「黒石高等学校」となるのではないか。新元号を用いた場合、その時点では新しい名称で注目が集まり、新しい高校が始まると感じるかもしれないが、将来、次の元号になった際には古いというイメージが生じることが懸念される。このことから、「黒石高等学校」とした方が多くの人に納得してもらえるのではないか。

校歌等については、黒石商業高校の関係者の要望も加味しながら、黒石高校を中心に考えていただきたい。特に制服については、中学生や高校生等の意見が反映されていることが多く、最近では、ブレザー型の制服が流行になっていると思う。また、特に女子の生徒は制服のデザインも進学する高校を選ぶ際の基準になっていると中学校の先生方からも聞いている。このことも踏まえ、制服については一新してはどうか。

なお、校章に関しても黒石高校を中心に引き継いだ方が良いのではないか。

- 校名は二通りの案が出ている。自分は若い頃、全国の学生を選抜する機会があったが、他県の高校について調べる手段がなかったので、地名を冠した高校が伝統校という見方をせざるを得なかった。本県においても地名を冠した高校が伝統校だと思う。

今は様々な感情があるとは思いますが、100年後200年後の黒石の子どもたちを考えた場合、地名を冠した校名にした方が伝統校として認識されることが多いのではないかと思う。将来の子どもたちのことを考えるとその方がより幸せに近づくと考え。よって、今の段階では黒石市に1校になるので、地名を

冠した「黒石高等学校」であるべきだと考える。

黒石高校及び黒石商業高校のどちらの校歌も、地元津軽を愛するような校歌だと思う。ただ、黒石高校の作曲家の明本京静氏は昭和の大変有名な作曲家なので、仮に統合校の名称が「黒石高等学校」となった場合には、現在の黒石高校の校歌の方が魅力があるのではないかと。

校章も非常にシンプルで私は現在の黒石高校の校章が好きなので、仮に統合校の名称が「黒石高等学校」となった場合にはそのまま良いのではないかと。

制服はもっと柔軟に考えて良い。統合しても現在在学している生徒については卒業するまで現在の制服で良い。したがって、新たに統合校に入学する生徒は新しい制服で良いと考える。新しい制服は情報デザイン科の生徒にもデザインを考えてもらえば良いのではないかと。

- 校名については、これまでの本県の校名の付け方の連続性を踏襲した方が良い。このことから結果として黒石市内に1校になるので「黒石高等学校」になるのではないかと。

次に校歌については、資料2の他県等の事例にもあるように「変更せず統合対象校の校歌をそれぞれ第1校歌、第2校歌として使用」することが良いのではないかと。自分は旧制中学校の流れを汲む高校の出身であるが、学校には、旧制中学校の校歌（旧校歌）と戦後の校歌（新校歌）の二曲がある状態だった。卒業式に校歌斉唱となれば戦後の校歌（新校歌）を斉唱していた。後に母校に勤務した時、当時の校長の発案により、卒業式での校歌斉唱は新校歌だが、卒業生の退場のメロディとして旧校歌をピアノ演奏することとした。旧校歌の使い方についても全く違和感のない形を採っている。これは、校歌は二曲あるが、校歌の使い方を学校が決めるということである。今回の統合に当たり一新するものがある一方で、両校の伝統を受け継ぐものがあるとしても良いのではないかと。したがって、歌詞については手直しが必要かもしれないが、黒石高校、黒石商業高校の校歌を第1校歌、第2校歌とし、校歌の使い方に関しては統合校に一任しても良いのではないかと。

校章については、統合校には情報デザイン科が設置されることになるかと思うので、現在の黒石商業高校情報デザイン科の生徒が苦痛に感じないのであれば、是非同科の生徒に新たな校章をデザインしていただき、それを活用してはどうか。

制服については、統合等を行わなくても各高校における判断により変えることがある。ましてや今回は新しい学校になる。黒石市民や周辺市町村の方々にも新たな学校であることを理解してもらうためにも、是非新しい制服にした方が良い。

- 校名については、これまでの本県の付け方を踏襲した方が良い。新元号を加える校名案も新たな学校というインパクトはあるが、県全体を見れば、地名を

冠した校名の方が良いのではないかと思います。

校歌については、先ほどの委員の意見にもあったように引き継げるものは引き継ぐこととし、歌詞はともかく第1校歌、第2校歌として扱うことが良いのではないかと。

統合校が新しい学校であると対外的に発信できるのは校章と制服だと考えるので、どちらも新しいものに変えることによって、地域の方々が統合について視覚から認識してもらえないのではないかと。校章についても、情報デザイン科の生徒にデザインを依頼してはどうかとの意見は大変ありがたいものであり、それにより黒石商業高校としても統合するという意識が高まるのではないかと。

- 自分は黒石商業高校の校歌は分かるが、黒石高校の校歌については分からない。本日、黒石高校の校歌を用意してもらえれば良かったと思う。

黒石高校及び黒石商業高校の校歌は、いずれも各時代の言葉で作られた歌詞であり現在とは必ずしも合ったものではないと思うので、新しい校歌を作った方が良いのではないかと考えた。仮に、公募した場合、恐らく相当時間がかかると考えられる上、黒石市のことを分からない人でも作ることができるので、なかなか難しいとも思う。また、作曲家に依頼する場合でも近隣に皆が納得するような作曲家がいるかと言えば考えにくい。一方、全国的に見ても、校歌については公募したり元の校歌を引き継いだりしている。聞いたところでは、有名な歌手に依頼したところ委託料が高額だったということもあるようだ。このことから、生徒も含めた学校関係者から募集してはどうかと考えてきたが、様々な意見を聞くと、第1校歌、第2校歌であればどちらの歴史と伝統も守れることから、わざわざ新たに作るよりは、この考え方が大変良いのではないかと。校歌はその地域に合わせた歌詞になっていると思うので、特に不都合がない。両校の校歌を残すのであれば、現在は使わない言葉が歌詞であったとしても皆納得すると思う。

校章については、黒石商業高校情報デザイン科の生徒がデザインした新しい校章にすれば良いのではないかと。黒石市内の統合する小学校においても黒石商業高校情報デザイン科に依頼し一新している。

制服については、黒石高校、黒石商業高校の制服はともに、自分が高校生だった時のデザインとは変わっている。自分が黒石商業高校に入学した時には制服はなかった。当初、黒石商業高校では制服を指定しない予定だったが、近隣の学校から猛反対があったため、標準服という形で正式行事にだけに着用するものとしてできた。しかし、当時は私服で通学する時代でもなかったため、生徒は普段から着用していた。制服は子どもたちが着用するものなので、時代に合わせてデザイン等も変わっていくと思う。

また、新たな制服に変更するに当たっても、現在のように地元の制服業者が扱えるような形にしてもらいたい。今現在在学している生徒は、今の制服で卒業し、統合校に入学する生徒は新しい制服に一新する方向にしてもらいたい。

なお、校名は、新元号に黒石の地域を加えた「(新元号)黒石高等学校」と

することで、新しい学校ということイメージできると思う。

委員長から、制服については委員全員が一新するとのことだったが、どのように変更すべきと考えるか意見を求めた。

- 来年度設置される中南地区統合校開設準備室にデザイン等の選定を任せてはどうか。現在の両校の制服を見ても、どちらもブレザーであり大差はないと思う。

制服業者等の意見も聞きながら、長く使用できる生地にするなど子どもたちに適したものにしてもらいたい。

- 開設準備室が設置される前ではあるが、黒石高校と黒石商業高校の専門的な知識がある教員等でワーキンググループのように組織し、前もって少しずつ検討していくことが良いのではないか。

- 高校は中学生向けの体験入学を大体7月下旬に行っている。その段階で新たな制服ができあがっていれば一番良いと思う。仮に間に合わなかったとしても、10月頃までには示したい。

そのように考えると、来年度開設準備室が設置されてから検討しては間に合わないと思うので、学校関係者等でワーキンググループを立ち上げ、直ちに検討した方が良いのではないか。

- 先ほどの校歌についてだが、各委員の意見を伺い、可能なのであれば第1校歌、第2校歌にした方が良く思うようになった。

制服に関して、黒石高校の制服も変更してから年数が経つと思うので、両校の力を一つにして新たなものを作り出すことが良いのではないか。

- 平成32年4月に新たな制服が必要だということを考えると、いつまでにデザインの検討等がなされれば良いかなどタイムリミットから逆算して考えた方が良く思う。開設準備室における検討が期間的に無理があるのであれば、前もって検討してはどうか。新黒石小学校の校章については、黒石商業高校情報デザイン科からA案、B案、C案をいただき、その原案を各小学校の関係者で検討した。さらにその検討結果を基に再度関係者が集まり検討した経緯がある。また、新設した六郷小学校の校章は統合校の校章を引き継ぐこととしたが、統合の実行委員会から校旗だけは新調してもらいたいという要望があったので新調し開校式に間に合わせた。ただし、校旗は非常に高額だった。したがって、中南地区統合校の校章も新たなものになれば校旗も新調することになると思うが、高額な上に大変時間がかかるものなので、校章と合わせてスケジュールを決めて考える必要がある。

このようにデザインを一新することにより関連する業務もあるので、平成3

2年度に間に合わせるためにはタイムスケジュールを勘案しながら、それぞれ前もって検討する必要があるのではないかと。

委員長から、事務局に対し、校章、校旗、制服を一新するとなればかなりの日数を要すると考えられ、開設準備室の設置後に検討を始めた場合、開校に間に合うのか確認があった。

→（事務局）これまでの例から開設準備室において検討していただくことが基本になるものと考えているが、検討期間も限られていることから、開設準備室の設置前であっても両校の協力を得て、できることから検討を進めていきたい。

なお、校章や校旗については校名が決定しなければ制作できない可能性も考えられるので、校名については来年度の早い段階で県教育委員会において決定することとしている。いずれにしても、校名決定後の制作となるかと思うので、非常にタイトなスケジュールになるものと考えられる。

委員長から、校歌、校章及び制服については、「黒石高等学校」及び「（新元号）黒石高等学校」のどちらの校名であっても委員の意見はおおむね同じ方向であったとし、開設準備委員会では、統合校における校歌については、黒石高校及び黒石商業高校の校歌を併用することとし、その校歌の活用方法については統合校に一任すること、校章については、一新することとし黒石商業高校の情報デザイン科の生徒にデザインを依頼すること、制服については、一新することとしデザイン等については両校の知識を有する教職員でワーキンググループを設置するなど早期に検討することとする旨確認し、委員から了解された。

（2）黒石高校及び黒石商業高校の引継ぎ・連携等について

委員長から副委員長である両校の校長に対し、資料3についてそれぞれ説明を求めた。

（黒坂副委員長）物品に関しては、後ほど事務長から説明する。私からは中南地区統合校に引き継ぐべき特色ある教育活動と部活動について説明したい。

教育活動として黒石高校からは学校行事としての「黒石よされ」への参加と学校設定科目「ボランティア探究」の2つをあげている。これらは学校外の活動であり、生徒自らの体験によって教員からだけではなく地域の方々から学ぶという観点からは是非引き継いでほしい。

本校では学校行事として1、2年生が黒石よされに参加している。ただし、黒石市内出身の生徒だけではなく黒石市以外出身の生徒も参加しているため、早めに帰宅させている事情がある。黒石よされ実行委員会等からは生徒の帰宅時間になると参加者が大幅に減少するため、何とか更に30分でも延長できないかと要望があり調整した結果、今年度は延長を計画した。しかしながら、天候が悪く断念した経緯がある。来年度以降も継続できるよう引き続き検討を重ねたい。

「ボランティア探究」に関しては学校設定科目として設定しており、県内では、

本校と六戸高校だけに設置されている。過去3年間の登録者数で言えば、平成27年度が113名（延べ345名）、平成28年度が98名（延べ237名）、平成29年度は106名（延べ252名）である。地域からお願いされてボランティアに参加することで、生徒自身が体験を通した学びを行っているのは是非中南地区統合校に引き継いでもらいたい。

部活動に関しては、フェンシング部など黒石商業高校になく黒石高校のみに設置している部活動は是非引き継いでほしい。なお、バドミントン部については本県のバドミントンの発祥の地が黒石高校とのことなので、是非引き継いでもらいたい。

（黒石高校原子事務長）記念物品の保管については、普通教室1室とその約半分の広さの部屋を保管場所の候補としている。実際には、保管する記念物品の量を見てからどちらの部屋にするか決めることになるかと思う。

（黒坂副委員長）黒石商業高校の「種まく人ブロンズ像」は、人目の付く場所に設置してもらいたいとの意見も伺っているので、生徒だけでなく来校者にも見られるように本校1階のコモンスペースなどに設置すれば良いと考えている。

（三上副委員長）特色ある教育活動について、宮古商業高校との姉妹校交流は、黒石市と宮古市が姉妹都市であることから始まった。両校の学校規模がほぼ同じということもあり交流し切磋琢磨する目的で平成2年2月に姉妹校の締結をした。これまで本校の文化祭において宮古商業高校の演劇部の講演、ブラスバンドの合同コンサートを行ったほか、本校のペーパーファッションショーの披露、文化部の作品展示、三陸わかめと津軽のりんご販売、運動部の親善試合の実施等が行われている。

今年度は本校の文化祭において宮古商業高校の海鳴り太鼓を披露していただいた。また、宮古商業高校の「宮商デパート」において本校の家庭部の開発商品の販売実践を行った。ソフトボール部、野球部の部活動交流が行われた。

宮古商業高校との姉妹校交流事業は、両校とも平成32年度に統合することから、平成31年度に終期を迎えるが、今後の在り方について検討していく必要がある。

黒石こみせまつりには各部活動において毎年参加している。

また、ボランティア活動については、ボランティア事務局が中心となり生徒を集めて様々な要望に応じて実施している。

スポカルおはなし会は、スポカルイン黒石の図書コーナーで開催されているおはなし会において、図書委員を中心に読み聞かせボランティアとして実施している。

ペーパーファッションショーは、本校の文化祭である黒商祭において平成元年から開催しており、今年度は黒石高校において、プレ・ペーパーファッションショーを開催し、黒石高校の代表が黒商祭において作品を披露するなど交流が進め

られている。

記念物品について、本校の記念物品として資料3に記載した「種まく人ブロンズ像」は本県出身の彫刻家小坂圭二氏の作品であり、本校初代校長である蝦名俊吉氏が創立10周年の記念に寄贈したものである。彫刻の台座には、黒石商業高校の「誓いのことば」等が記されており、「昨日に流されず、今日に埋もれず、明日を見据えて」のたとえを「種まく人」に託したとのことである。

部活動であるが、運動部については、おおむね黒石高校においても本校の部活動が実施されており、新たに設置する必要はなくこのままで良いのではないかと考える。文化部については、本校は商業高校であるので、簿記、ワープロ、情報処理、珠算・電卓の競技大会があることから全て統合し商業部として活動しており、主に商業科の生徒が所属している。また、イラスト・漫画研究部の部員の多くは情報デザイン科の生徒になっている。このような状況なので、商業部の方向性については今後統合校において検討してもらいたい。

委員から、次のような意見があった。

- 小中学校の統合の際には、統合対象校のそれぞれ校長が自校の特色ある教育活動を校長会に持ち寄り検討した。例えば、東英中学校ではこけし体験活動、六郷中では幻の県道踏破体験などがあるが、それらは全て新黒石中学校に引き継いでいる。それぞれの学校で残したい特色ある教育活動については校長会で検討するとともに、統合前には生徒同士の合同学習等を行うなどしながら、統合校に引き継いでいる。
- 黒石高校及び黒石商業高校ともに黒石市と非常に密着した活動が行われている。黒石よされや黒石こみせまつりへの参加が欠けると黒石市にとっては痛手になるかとは思いますが、並行して行うことができるかが課題かもしれない。
- 部活動単位での参加は可能かとは思いますが、学校全体での参加が可能かどうかは今後の検討になると思う。
- 黒石よされは学校行事として設定し実施されているので対応可能かと思う。また、黒石こみせまつりもこれまでは部活動単位で商業科の広報の機会という側面も持ちながら参加していたので、統合後は情報デザイン科として参加できるのではないかと思う。

委員長から黒石商業高校教務主任に対し、宮古商業高校との姉妹校交流等があるが、統合校においてこれらの活動を全て実施することが可能かどうか意見を求めた。

(黒石商業高校須藤教務主任) 黒石高校では黒石よされに学校行事として、黒石商

業高校では黒石こみせまつりに部活動単位として参加しているとのことであり、このように実施するのであれば、統合校においても実施可能ではないかと思う。

また、ボランティア活動に関しては、黒石高校では学校設定科目で、黒石商業高校はボランティア事務局が中心となって実施しているが、これはボランティアを受ける窓口の違いだけだと思うので、スポカルおはなし会も含めて実施は可能だと思う。

宮古商業高校との姉妹校交流については、宮古商業高校も統合となるので平成31年度で終わるものの、黒石市と宮古市が姉妹都市であることから、それぞれの新設校同士が部活動等で交流することなどについて今後検討すれば良いと思う。

ペーパーファッションショーについては、今年度は黒石高校でも実施するなど、黒石高校と黒石商業高校の生徒会が連携してノウハウを引き継いでいるので、今後も文化祭の中に組み込むことも可能ではないかと思う。

委員長から、委員等の意見によれば、統合校でもこれまで両校が行ってきた特色ある教育活動は何らかの形で実践することが可能とのことであり、統合する前であっても、両校が協力し一緒に活動すれば、統合後もスムーズに実行できると思うので、両校の校長先生方には連携協力を引き続きよろしくお願ひしたい旨発言があった。

委員長から黒石高校事務長に対し、記念物品の保管に関連し、記念物品の一般公開等について検討しているか意見を求めた。

(黒石高校原子事務長) 現段階では部屋の確保に留まっており、そこまでは検討がなされていない。

委員長から、記念物品については、両校にとって非常に貴重な物品になると思うので将来にわたって是非大切にしてもらいたい旨発言があった。

委員長から、部活動については、黒石商業高校にのみ設置している部活動もあるが、統合校に引き継がれるのは情報デザインに関する学びであることを踏まえ、現在黒石高校で実施している部活動で十分ではないかとの意見だった旨確認し、委員から了解された。

委員長から、開設準備委員会では、特色ある教育活動、記念物品及び部活動についてはおおむね順調に引き継げることを確認した旨発言があり、併せて事務局に対し、次年度設置される中南地区統合校開設準備室に当委員会の検討状況を伝達するよう指示があった。

(3) 黒石高校及び黒石商業高校に係る各種証明書の発行等について

事務局から、資料4について説明した。

委員から、次のような意見等があった。

- 今年度の商業科の教育実習生は1名である。
- 統合校においては商業科の教育実習生の受入れは困難かと思うので、この資料4に記載しているように、県教育委員会から他の県立高等学校長へ受入れを要請してもらうことになるかと思う。
→ (事務局) 中南地区であればおそらく弘前実業高校に要請することになるかと思う。

委員長から、開設準備委員会では、資料4に記載している内容について確認した旨発言があり、委員から了解された。

(4) その他

- 統合校の特色ある教育活動として、様々な事情はあるかと思うが、黒石市内の参加団体も減少しているので、是非黒石ねぷたまつりへの参加を検討してもらいたい。平川市では柏木農業高校が平川ねぷたまつりを盛り上げていると聞くので、何とか黒石市においても協力してもらいたい。
また、黒石高校の校舎には情報デザインを学ぶ実習室を設置するかと思う。次回の会議では、実習室の広さや設置数等、施設の見通しについて是非教えてほしい。
最後に、各校の同窓会の事務局について教職員に協力をお願いしているが、統合した場合における同窓会の事務局の扱いについて検討してほしい。
→ (事務局) 同窓会や後援会等については、学校外の任意団体であるので、各団体で検討していただくことになる。
- 黒石商業高校同窓会では、新会員はなくなるものの同窓会としては継続して活動していく旨確認したところである。現行の会員から会費をどのように徴収するかなどが課題であり、これまでどおり学校の協力を得られるのか心配している。
- 同窓会等の任意団体の在り方については黒石高校も同様かと思うので、同窓会会員同士で課題を共有し課題解決に向かえば良いのではないか。
- 黒石ねぷたまつりについて、新しい高校が設置される記念に黒石ねぷたを展示する施設を作るなど、高校は統合したものの学校の教育活動は充実したと言われるように、今から計画してほしい。

黒石市内の小中学校14校を6校に統合するが、それぞれの閉校式に出席すると寂しさを感じる。しかしながら、統合した学校に子どもたちがスクールバス等で登校している様子や学校の活動が充実している光景を目にすると、統合して良かったという印象を強く受けている。また、複式学級での授業の様子を見ると、より良い環境で早く学ばせたいという思いが強くなる。空き校舎となる8校については、児童生徒が在籍している間は閉校後の利活用について検討しない方針とし、閉校後に市長部局で検討することとしているところである。

過去に閉校した県立高校の閉校後の利活用の例を見れば、平成25年度に閉校した八戸南高校は平成29年度より八戸高等支援学校に、平成28年度に閉校した岩木高校は平成31年度より弘前第一養護学校高等部において活用するという状況である。閉校してから利活用までそれぞれ4年間、3年間と期間が空いている。

黒石商業高校校舎の利活用として、黒石養護学校の移転について検討する余地があるのではないか。黒石養護学校の立地場所は冬季間の通学に支障があるという意見が黒石市にも寄せられていることや、黒石市では手話言語条例を本県で初めて制定するなど障害のある方々も暮らしやすい地域づくりを目指して環境の充実を図っていることなどが理由である。

黒石商業高校の閉校時にあっても、校舎の次の構想が見える形にしてもらいたいので、是非利活用について検討してもらいたい。

→（事務局）担当課にも情報提供したい。

5 閉会